

# ヒアリング調査結果

## 一 目 次 一

1. 調査の目的 .....	1
2. 調査の実施概要 .....	1
3. 調査結果（生産者） .....	2
1. 農業・生産活動の現状・課題について .....	2
2. 農業・生産活動の振興・活性化に向けた方向性に関するこ	4
3. その他 .....	5
4. 調査結果（直売所） .....	6
1. 農業・生産活動の現状・課題について .....	6
2. 農業・生産活動の振興・活性化に向けた方向性に関するこ	8
3. その他 .....	9

## 1. 調査の目的

令和 3 年 3 月に策定された大野町農業基本計画の計画期間が令和 7 年度をもって終了することから、農業を取り巻く社会情勢の変化・時代の潮流及び大野町内の生産者・直売所の意向を踏まえ新たな大野町農業基本計画（以下「農業基本計画」という。）の策定することを目的とし、調査を実施した。

## 2. 調査の実施概要

以下にヒアリング調査の概要を示す。

対象	：生産者…蔬菜園芸振興会	代表 1 名
	玉葱振興会	代表 1 名
	農業経営者協議会	代表 1 名
	かき振興会	代表 1 名
	バラ苗生産組合	代表 1 名
	営農組合連絡協議会	代表 1 名
	大野町認定農業者	代表 1 名
	農事組合法人	代表 1 名
	直売所…JA いび川	代表 1 名
	道の駅パレットピアおおの	代表 1 名
		計 8 名
		計 2 名

実施期間：令和 7 年 12 月 22 日（月）～令和 8 年 1 月 8 日（木）

実施方法：ヒアリングの実施

### 3. 調査結果（生産者）

以下に生産者におけるヒアリング調査結果を示す。

⇒方策●-● : 基本計画の施策体系  
とのつながりを示す

#### 1. 農業・生産活動の現状・課題について

##### 農業・生産活動の現状について

- 現在の取組、近年の動向（以前と比べて変わったこと）
- 特に力を入れている取組・重視していることなど

- ・高齢化で経営面積を減らしていっている。
- ・以前は海外からバラの苗・種を輸入していたが、現在はバラの海外輸出に力を入れている。 ⇒方策 10-3
- ・後継者が経営を引き継ぎやすいように、スマート農機等の機械の整備を行っている。 ⇒方策 3-3
- ・今後の気象変動に対応した、品種の導入を進めていきたい。 ⇒方策 4-4
- ・昨今の気候に対応した栽培方法で作物を生産している。
- ・色々な作物の生産をやめて、少数の品種にしほることにより作業の効率化を図り、作業時間の短縮につなげている。 ⇒方策 8-2
- ・オペレーターの技能向上とIT関係の導入に力をいれて取組んでいる。
- ・JA主体の販売ではなく、農業法人が主体となって販売を行っていく方向で進んでいる。
- ・町内全体で水稻の減農薬栽培に取組んでいる。 ⇒方策 6-1
- ・6次産業化商品の開発に力を入れている。 ⇒方策 8-1

##### ●活動に当たっての問題点・不安・課題など

- ・組合員が大幅に減少している（高齢化）。
- ・農業者の高齢化が著しい。 ⇒方策 2
- ・高齢化により経営が難しい。
- ・後継者不足である。 ⇒方策 2
- ・コロナ禍以降、従業員やパートとのつながりが希薄になってきている。
- ・温暖化により作物の品質が低下している。 ⇒方策 4-4
- ・農機具や肥料などの価格が大幅に上昇している。 ⇒方策 1-1
- ・人材確保が困難である（高齢化）。
- ・オペレーターが不足している。
- ・経営が不安定である。
- ・地権者との関わりが希薄になってきている（隣人トラブル等）。
- ・働き方が不安定である（休みが不定期）。
- ・儲からない。 ⇒方策 8, 9, 10
- ・一つの品種の栽培が多いため、収穫時期が集中して大変である。

## 大野町の農業に対する現状についてどう考えるか

- 特長、強み・弱みなど
- 大野町農業の問題点・課題など
- 他都市との差別化、大野町の独自性を強化するための視点など

- ・全国的にもバラの知名度が高い。
- ・高齢化が進んでいる。
- ・土壤に恵まれた地域だと思う（どんな農作物も耕作できる土地）。
- ・若い人に農業に興味を持ってもらうような取組が必要である。
- ・柿の後継者の減少により、柿畠の遊休農地化が多くなっている。 ⇒方策 5-1
- ・地域によっては水の確保が難しい農地があるため、今後は町全体の水の利用について考えないといけない。 ⇒方策 7-1
- ・中山間地が少なく、農業がしやすい地域である。
- ・小さい区画の農地が多いため、大区画化を進めていったほうがよいと思う。
- ・町外より大野町に新しく来た人の苦情が多く、農業がやりにくくなっている。
- ・トラクターなどによる道路への泥に対する苦情が多くなっている。できる範囲で撤去を行っているが、それでも苦情がある（新しく大野町に転入してきた人）。
- ・現在、柿の栽培をしている農家の高齢化が著しく、今後一気にやめて遊休農地化するおそれがある。 ⇒方策 5-1
- ・耕作者がいない柿畠の活用の仕方を考える必要がある。 ⇒方策 5-1

## ●他都市との差別化、大野町の独自性を強化するための視点など

- ・ブランド化を進める。 ⇒方策 8-2
- ・土地に合わせた作物を作る。
- ・災害が少ないことを売りにした農地利用を行う。
- ・営農組合の組織強化を図り、経営の安定化を図っていく。 ⇒方策 1-1
- ・集落営農組織の法人化を進める。 ⇒方策 1-1

## 農業基本計画（R3～）の取組成果、効果について

- ① 生産活動の拡充・多角化について（注目している農作物など）
- ② 6次産業化・地産地消など
- ③ スマート農業について
- ④ 遊休農地の解消・有効活用について
- ⑤ 担い手への農地の集積について
- ⑥ 都市農村交流について
- ⑦ シルバー雇用、農福連携

- ・観光農園の推進を行っていく予定である。 ⇒方策 11-2
- ・スマート農機を導入したことにより、作業効率が格段に向上した。 ⇒方策 1-3
- ・農地の集約を図ることにより、作業効率が向上した。 ⇒方策 4-1
- ・シルバーに楽な作業を依頼し、その間に専門的な作業を行うことができた。 ⇒方策 2-3

- ・玉ねぎの収穫体験を通して、都市住民の農業に対する理解や関心の醸成につながったと思う。
- ・農事組合法人として、**集積・集約化**に力を入れて取り組んだ（地域計画に沿った集積・集約）。 ⇒方策 4-1
- ・法人として、作業の効率化を目指し、スマート農機の導入に力を入れている。
- ・法人におけるドローンの導入は、他市町村に比べて進んでいると思う（農事組合法人は全て導入）。
- ・**中間管理事業**を活用して、**担い手への集積・集約化**が進んでいる。 ⇒方策 4-1
- ・遊休農地の解消活動を町・県・農業委員会と連携して行い、解消後の農地を活用する取組を行っている。
- ・**農福連携**が可能な作業については作業を手伝ってもらっており、その体験を通じて農業に従事してもらえることが理想である。 ⇒方策 2-3
- ・**6次産業化商品の海外輸出**に向けた取組を推進している。 ⇒方策 8-1, 10-3
- ・**都市農村交流**として、所有する農地を貸し出し、**農業体験**を実施している。 ⇒方策 11-1
- ・農福連携を推進するため、作業委託を増やしている。

## 2. 農業・生産活動の振興・活性化に向けた方向性に関すること

### 農業・生産活動の活性化に向けた取組について（団体としての取組）

- ・積極的に実施・展開を図りたい取組
  - ① 生産活動の拡充・多角化について（注目している農作物など）
  - ② 6次産業化・高付加価値農産物などについて
  - ③ 環境調和型農業や有機農業について
  - ④ 販路の拡大について
  - ⑤ 都市農村交流について
  - ⑥ スマート農業について
  - ⑦ シルバー雇用、農福連携

- ・**環境調和型農業の推進**に向けて、**化学肥料を削減した生産**を行っている。 ⇒方策 6-1
- ・**農業イベント**を積極的に行い、農業に対して興味を持ってもらうことで、**若い新規就農者や町外からの就農者の獲得**を目指したい。 ⇒方策 11-1, 2-2
- ・農事組合法人として、JAと協力しながら**環境調和型農業の推進**を行っている。 ⇒方策 6-1
- ・**販路拡大**のため、より多方面への販売を行っていくことが必要である。 ⇒方策 10-1
- ・**6次産業化**を行い、大野町の農作物を他県にもPRし、地元農業を盛り上げたい。 ⇒方策 8-1
- ・現在、道の駅への出荷が少ないため、**道の駅へより多く農作物を出荷**し、地元の人に届けることで農業への関心を持ってもらいたい。 ⇒方策 9-2
- ・業務環境を改善することで農業従事者が増えると考えられるため、スマート農業の導入により作業時間の短縮等を行っていく。
- ・**6次産業化商品**の販路の拡大を図っていく。 ⇒方策 8-1

## 大野町の農業振興に対して必要・重要なことについて

- 重視すべき事項・方向性
- 行政に対して特に期待すること・要望したいこと

- ・ブランド化を進めて知名度を上げる必要がある。 ⇒方策 8-2
- ・農業収入を上げ、若い担い手を増やす必要がある。 ⇒方策 8
- ・圃場の大規模区画化を行い、生産効率を上げることが必要である。
- ・集積・集約化を進め、耕作の効率を上げることが必要である。 ⇒方策 4-1
- ・儲ける農業を目指し、単収の向上を図ることが必要である。 ⇒方策 8
- ・優良農地の減少を防ぐことが必要である。 ⇒方策 4-1
- ・今後も営農組合同士で連絡を密に取り合い、大野町の農業振興に取り組んでいくことが必要である。
- ・若い担い手を増やすことが必要である。
- ・柿とバラの町であることから、より一層 PR を行い、全国的に有名にしていくことが必要である。
- ・農業者が有するノウハウをデータ化し、それを活用することで、農業未経験者でも耕作が行える仕組みを作ることが必要である。
- ・機械などの貸出を支援する仕組みがあれば、新規就農しやすくなると思う。 ⇒方策 1-1

### 3. その他

#### 大野町農業振興の推進に向けた方策について

- 推進体制について
  - ①農業生産者同士のネットワーク・つながりについて
  - ②農業生産者、消費者、行政等のネットワーク・つながりについて
- その他意見・提案・要望など

- ・ブランド品を新たに増やしたらどうか。 ⇒方策 8-2
- ・担い手を増やす方法を考えた方がよい。 ⇒方策 2-2
- ・田作と畑作の農業者同士の交流が少ないため、意見交流ができる機会をより多くつくった方がよいと思う。

## 4. 調査結果（直売所）

以下に直売所におけるヒアリング調査結果を示す。

### 1. 農業・生産活動の現状・課題について

#### 農業・生産活動の現状について

- 現在の取組、近年の動向（以前と比べて変わったこと）
- 特に力を入れている取組・重視していることなど
- 活動に当たっての問題点・不安・課題など

#### 【農林畜産物直売所】

- ・米の販売が伸び悩んでおり、適正価格での販売が大きな課題である。
- ・直売所の年間売上は近年減少傾向にあり、その背景には、生産者の高齢化や担い手不足に加え、温暖化や降雨量の減少といった複合的な要因がある。 ⇒方策 2-2, 4-4
- ・高齢の生産者の中には、「売れればよい」という考え方から相場よりも大幅に低い価格で販売するケースが見られる。委託品の安定確保と、適正価格に対する理解の醸成が現在最も重要な検討事項である。

#### 【道の駅パレットピアおおの】

- ・新しいルールへの移行に伴い、出荷物の大きさや色など、さまざまな基準が新たに設けられている。生産者の中には「これまで問題なかった」といった認識も根強く、法改正の趣旨や背景を丁寧に説明し、ルール遵守に向けて意識の変化を促していく必要がある。
- ・農薬使用基準に抵触する事例が多く見受けられたことから、それに対する対応が必要であった。 ⇒方策 3-4
- ・生産者の高齢化により引退される方が増えている一方で、新たに参入する若手生産者は少なく、結果として全体の担い手は減少傾向にある。 ⇒方策 2-2

#### 大野町の農業に対する現状についてどう考えるか

- 特長、強み・弱みなど
- 大野町農業の問題点・課題など
- 他都市との差別化、大野町の独自性を強化するための視点など

#### 【農林畜産物直売所】

- ・大野町は柿の産地として知られており、直売所には多くの生産者から柿が持ち込まれる。
- ・直売所に持ち込まれる柿の多くは選果場に出荷できない規格外品であり、品質確保の面で課題を感じることがある。
- ・大野町は大規模農家が少なく、兼業農家を中心である。
- ・農業全体の課題として担い手不足が深刻であり、相続を機に農業をやめるケースが増加している。 ⇒方策 2-4
- ・大野町の支援を受けて整備された選果場は、高度なセンサーを備えた日本でも有数の施設であるが、現状ではその性能を十分に活かしきれていない。
- ・柿は加工品展開が難しい作物であり、本格的な展開にはJAなど関係機関と連携し、一定の規模と体制を確保する必要がある。 ⇒方策 8-1

- ・柿そのものの品質は非常に高いが、課題は品質ではなく知名度の低さである。
- ・「パレットピアおおの」で柿を積極的に取り扱ってもらえば効果的であると感じている。しかし、「パレットピアおおの」は新規参入が難しく、販売経路ごとに求められる品質や価格帯が大きく異なっており、柿の知名度向上と販売拡大を進める上での制約となっている。

#### 【道の駅パレットピアおおの】

- ・道の駅におけるルールが段階的に変更されていく中で、生産者が十分に対応できるかどうかが課題となっている。
- ・大野町の独自性の一つとして「柿」が挙げられる。
- ・これまでに複数のブランド野菜を展開してきたが、現在は先細りの傾向にある。ブランド野菜の品目を増やすだけでは根本的な解決にはならず、**最終的には生産者自身の意識や取り組み方が変わらなければ状況は改善しない。** ⇒方策 9-3
- ・バラについては約 9 社が販売しており、評判は良好である。一方で、バラ農家についても高齢化が進んでおり、**担い手確保が今後の課題**となっている。⇒方策 2-2

#### 大野町農業基本計画（R3～）の取組成果、効果について

- 加工品の販売
- イベントの開催 など

#### 【道の駅パレットピアおおの】

- ・**ブルーベリーの加工品**を販売しており、**一定の販売実績**を上げている。⇒方策 8-1
- ・スタンプラリーを実施するなど、**各種イベントへ積極的に参加**している。⇒方策 10-2
- ・「一定の品質の商品を出荷すれば確実に売れる直売所」を目標に掲げ、品質管理や販売方法の工夫に取り組んでいる。

## 2. 農業・生産活動の振興・活性化に向けた方向性に関すること

### 農業・生産活動の活性化に向けた取組について

#### ●積極的に実施・展開を図りたい取組

- ① 生産活動の拡充・多角化について（注目している農作物など）
- ② 6次産業化・高付加価値農産物などについて
- ③ 環境調和型農業や有機農業について
- ④ 販路の拡大について
- ⑤ 都市農村交流について
- ⑥ スマート農業について
- ⑦ シルバー雇用、農福連携

#### ●担い手の確保・多様化と直売所との連携

### 【農林畜産物直売所】

- ・農協は日本全国にネットワークを有しており、農協を通じた広域流通は現実的な選択肢である。  
実際に北海道で柿を販売した際には、高い需要が確認された。 ⇒方策 10-1
- ・全国販売を行うには輸送コストの問題があり、現状では必ずしも採算が取れるとは限らないが、JAの力を活用して柿の認知度を高め、日本中に広めていくことが重要である。
- ・近年、白菜やキャベツなどの品目について、生産者が同じ時期に一斉に出荷する傾向が強く、供給が特定の時期に集中している。出荷時期をわずかにずらすだけでも販売の機会は広がるため、生産者に丁寧に伝えていくことが重要である。
- ・月1回開催している栽培講習会を通じて、新しい品種や栽培方法を中心に学ぶ機会を設けている。 ⇒方策 9-3
- ・学校給食への地産地消の取り組みは重要なものの、すぐに実現できるものではないと感じている。 ⇒方策 12-2
- ・販路の確保は重要な課題であるが、比較的すぐに取り組める分野でもある。生産者の所得向上と直売所の売上確保の両立が不可欠であり、収益性をしっかりと確保しつつ、持続可能な形で販路の拡大に取り組んでいきたい。 ⇒方策 10-1
- ・当組合すでに農福連携に取り組んでおり、揖斐地区では揖斐支援学校などと連携し、職場体験の受け入れなどを実施している。 ⇒方策 2-3
- ・シルバー人材センターについては、時給が比較的高いという印象があるものの、短期間・必要な時だけ依頼できる点ではメリットもある。

### 【道の駅パレットピアおおの】

- ・シルバー人材の活用については、現状では敷地内の除草作業など、限定的な用途において必要に応じて利用する程度にとどまっている。
- ・道の駅では、オープン当初から障がい者を中で雇用している。 ⇒方策 2-3
- ・新規就農者の参入が進むことが望ましいが、道の駅としては参入のハードルが過度に高くならないよう配慮している。特に、若い世代の生産者により多く参加してもらえることを期待している。

## 大野町の農業振興に対して必要・重要なことについて

- 重視すべき事項・方向性
- 行政に対して特に期待すること・要望したいこと

### 【農林畜産物直売所】

- ・小中一貫校の整備や道の駅に関する動きも進んでいることから、農業基本計画の観点も含め、  
人を呼び込む施策が重要である。⇒方策 2-2
- ・人口が減少している中、現在の担い手に対する十分なフォローも不可欠である。⇒方策 1-1

### 【道の駅パレットピアおおの】

- ・柿畠の伐採等により遊休地となっている土地が見られるため、今後はその土地の有効活用が図  
れれば望ましい。⇒方策 5-1

## 3. その他

### 大野町農業振興の推進に向けた方策について

- 推進体制について
  - ①農業生産者同士のネットワーク・つながりについて
  - ②農業生産者、消費者、行政等のネットワーク・つながりについて
- その他意見・提案・要望など

### 【農林畜産物直売所】

- ・新規就農については、意欲的に「やりたい」と話す人は多いものの、明確な将来像や経営目標  
がないまま就農を希望するケースもあり、慎重に見極める必要がある。

### 【道の駅パレットピアおおの】

- ・今後は、イベントの実施をさらに充実させていきたいと考えている。これまでにはバラや柿を中心  
に、主に5月や11月にイベントを実施してきたが、今後は野菜等を活用したPRイベントを  
企画し、通年での集客や販売促進につなげていきたいと考えている。⇒方策 12-1